

2025 夏休み子どもワクワクフェア

2025, 7, 27 (日)

うじ多文化クラブ

今年の京都の夏は、とても暑いですが、でもそんな暑さもなんのその。元気な宇治の子どもたちとその保護者そして、スタッフたちとで、今年も「夏休み子ども

わくわくフェア」でもりあがりました。

今回のテーマは、「日本のずんだおはぎ作りと世界のお菓子」です。

この日朝から17人の子どもたちが金原康代さんと一緒にきれいに手を洗って、それぞれのエプロンと三角巾をつけてきちんと身支度を整えました。

最初はずんだおはぎづくりです。ずんだおはぎとは、東北地方の名物おはぎで、枝豆を使った黄緑色のおはぎのことです。子どもたちは、5～6人のグループ三つに分けられました。それぞれのグループには、すりこぎとすり鉢等必要な道具が全部セットされていました。みんなおはぎの話、作る手順、道具の使い方等の先生の説明を目を輝かせてよく聞いていました。

もち米が蒸しあがり、さあいよいよおはぎ作りの始まりです。一人がすり鉢を支えてもう一人がすりこぎをトントン……。このようなことを順番に手順よく……。

先の見通しと横の友達との連携が必要とされるこれらの作業は、簡単なようですが、実は共に活動することの難しさがありとてもいい勉強になったと思います。わからない時は自ら先生に聞きに行く人もいました。

保護者の方の見守りの中、どのグループも子どもたちの力だけでおいしそうなずんだおはぎができあがりました。

「いただきます。」と挨拶して、できたてのおはぎをいただきました。

そして次は抹茶の登場。松阪恵子さんの手際よい説明とモデルを見た後、子どもたちも抹茶に挑戦。茶筌をシャカシャカ……。いい音をたてて泡がたつように自分で抹茶を点てて飲みました。「なんで、泡が出ないのやろ。」「ちょっと苦いけどおいしい。」等、興味津々の活動でした。

午前中最後には、ドイツとベルギーの素敵なお菓子もらいひとまず休憩。特別サービスで手作りのミニおにぎりもいただきました。





君はちょうど1年前もこのイベントで話をしてくれたのですが、この1年でプレゼン力をすばらしく向上させていました。

午後からは「世界の駄菓子屋さん」でした。一番はネパールのビマル君。ネパールのおまつりやティカという飾りの写真を見てから、ネパールのお菓子を2種類、みんなにリザーブしてくれました。白いミルク味のふわふわクッキーと甘いバター味の丸いお菓子。この珍しいお菓子を少しづつ、みんなでいただきました。甘くて優しいとてもすてきな味でした。ビマル



二番はベトナムのアインさん。アインさんもプレゼンの回数を重ねるごとにアドリブで皆さんに話せるように力をつけてきていました。ベトナムのお菓子を、手作りの袋できれいに包装して皆さんに直接手渡してくれました。



三番目は、トルコのブルジュさん。カッパドキアやボスボラス海峡の写真を見た子どもたちは、とても嬉しそうでした。そして、チャイをいれて、皆さんに飲ませてくれました。暖かくて、とてもおいしかったです。



今日来ることができなかったスリランカの友達のジンジャークッキーも、みんなで味見をしました。しょうがのピリッとした味がきいていました。



展示は、アマティスタのルイスさんの友人である、コロンビア、メデジン在住のゴメス氏の絵画と、コーヒーの写真でした。お話を聞きながらゆっくりと鑑賞しました。仏教・宇宙・メキシコの古代文明であるアステカ文明の影響を受けた色使いの鮮やかな絵画に、南米の文化にも接することができました。

皆さんの今日の感想には、とてもおいしかったです。自分で作れて嬉しかった。そして、沢山の知らない友達がいるが、みんなと作業が分担できてよかった。等と書かれていました。作るだけでなく、後片付けをスタッフと一緒にずっとお手伝いしてくれた人もいたことは、とても嬉しかったです。指導する先生の話をもっと聞き入っていた子どもたちや、それを見守って下さっていた保護者の方の協力もすばしかったです。

日本のお菓子作りの体験、抹茶を自分で点てて飲む体験、そして外国のお菓子を通して外国の人から直接話を聞く体験、遠い南米に思いをはせる体験と沢山のことをすることができました。

「いつかみんなが大きくなったら、世界の色々な国へ行ってみたいと思ってほしい。」と子どもたちに語っておられた伊勢村さんの話が本当になったらいいですね。今回のイベントを機会に、皆さんの視野を大きくこれからも日本のすみずみや世界に広げていってほしいと願います。そして、食文化にも興味のある大人になって下さい。参加者の皆さん、スタッフの皆さん、暑さはなんのそので楽しく有意義な一日でした。本当にありがとうございました。